

重点目標 〈めざす姿〉	重点目標及び具体的方策	主担当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準
1 組織的な学校運営	①〈主体的・協働的な学校づくり〉 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組むと同時に、教職員のキャリアアップを図る。	教頭	各種ロードマップの取組が、明確なねらいのもとに組織的・計画的に行われるとともに、PDCAの実働化を図っている。	【教職員アンケート】 ・各種ロードマップの取組が組織的・計画的に実践され、検証を経て改善されている。という教職員の意識の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	②〈安心・安全な学校生活・危機管理〉 児童が安心して学校生活を送れるよう物心両面における危機管理に努め、いじめ・不登校・人権・特別支援等の課題には、組織的に迅速・的確に対応する。	教頭・生徒指導	いじめ・不登校に対し日頃の「見取り」をはじめ、定期的な児童アンケートや面談等を通して早期発見に努め、問題には、関連機関との連携を進めながら、迅速・適切に対応している。	【児童アンケート】【保護者アンケート】【教職員アンケート】 ・先生は自分のよいところを認めてくれると感じている児童の割合 ・学校はいじめのない学校・学校づくりに努めていると感じる保護者の割合 ・いじめなどの気付きを報告・連絡・相談し、組織的に対応していると感じる教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	③〈業務改善〉 教職員が常に時間管理意識やワーク・ライフバランス意識を保持し、ICT活用や専門スタッフとの協働を効果的に進めながら、業務のスリム化を図る。	教頭	子どもと向き合う時間の確保に向け、業務の見直しや改善策が図られている。	【教職員アンケート】 ・行事の振り返り方法の改善やICT活用による会議のスリム化、専門スタッフとの協働等により、業務改善が進みつつあると感じる教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
2 知(確かな学力の育成)	①〈授業改善と学力の向上〉 「学力向上プラン」と「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に授業改善及び児童の学力向上に取り組む。	教務	教職員が「学力向上プラン」と「学力向上ロードマップ」を確実に実践し、児童の学びの自覚化を重視した授業改善を行うことで、学力の向上が児童の実感となっている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・授業で分かったこと、できたことをまとめたり、ふり返ったりして、学びが深まったという児童の割合 ・「学力向上プラン」と「学力向上ロードマップ」を実践しているという教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	②〈基礎基本と活学力の育成〉 「きらめきシステム」等を充実・発展させ、組織的・計画的に検証と改善を重ね、基礎的知識・技能の定着及び活学力を育成する。	教務	「きらめきシステム」が組織的・計画的に運営され、基礎・基本の定着及び活学力の育成に成果として表れている。	【児童漢字・算数テスト】【保護者アンケート】【教職員アンケート】 ・学期ごとに行う「漢字50問テスト」「算数20問テスト」で80点以上の児童の割合 ・子どもの家庭学習が習慣となっていると感じる保護者の割合 ・家庭学習などを含む「きらめきシステム」をはじめ、基礎・基本の定着及び活学力の育成に向けた取組をしているという教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	③〈主体的・協働的に学ぶ児童の育成〉 聞く、話すの計画的な指導を行う。考えを広げ、深め合う場面での教育的活動を充実させる。適切な目標設定と学びの自覚化につながるふりかえりを充実させる。	研究	児童が意欲的に、聞こう・話そうとしている。児童が筋道を立てて考えを表現している。児童が学びを自覚している。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・進んで聞いたり話したりしている児童の割合 ・「学びのふり返り」や「聞く話すシート」などを活用し、聞くこと話すことの指導を意図的・計画的に行っている教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	④〈GIGAスクール構想の推進〉 GIGA校内研修推進リーダーを中心に、年間計画にそった研修を行うことで、全教職員が「児童が一人一台端末を活用して学ぶ授業」の実践力をつけ、児童の情報リテラシーを高める。	GIGA推進リーダー GIGA校内研修	GIGA校内研修が計画的に行われており、全教職員が「児童が一人一台端末を活用して学ぶ授業」を1日2授業以上行っている。	
3 徳(豊かな心の育成)	①〈積極的な生徒指導〉 共感的人間関係を育む言葉を豊かにする取組をしたり、QUの結果を効果的に活用したりする。また、特別支援教育の充実を図る。	生徒指導	親和的な学級づくりが進み、自己肯定感や共感の豊かな人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・一人一人が大切にされるクラスにしようとしている児童の割合 ・一人一人を大切に生徒指導を心がけている教師の割合 A:90%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満
	②〈主体性・協働性の育成〉 児童会活動や各種縦割りの教育活動等を通して、児童が主体的に取り組み、お互いを大切に協働性を高める実践を工夫することで、「より良い学級・学校を自分たちでつくる」という意識を高める。	生徒指導	一人一人が「よりよい学級・学校を自分たちでつくる」意識を持ち、誰かの役に立つことの大切さに気付いている。また、自分から気づいた「よいこと」を行動に移す意識が高まっている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・よりよい学級・学校を自分たちでつくるようとしている児童の割合 ・主体的・協働的に学級・学校生活をよくしようとする児童の育成を心がけ、指導している教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	③〈道徳教育〉 重点項目「希望と勇気、努力と強い意志、相互理解・寛容、よりよい学校生活、集団生活の充実、生命の尊さ」を中心に道徳の時間を充実させる。また、豊かな体験を活かし、教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進教師	道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、重点項目を中心に、心に響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・道徳の時間に自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりしている児童の割合 ・道徳の授業の充実にも、個に返して考える時間を確保している教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
4 体(健やかな身体の育成)	①〈基礎体力づくりと体力の向上〉 同学年・異学年との多様な遊びを通して、基礎体力を高める。また、「スポチャレ」や各種取組で目標を持たせ、粘り強く楽しく運動に親しみ、体力を向上させる。	保健主事	休み時間には、積極的に友達と仲良く遊んでいる。また、個人や集団として立てた目標に向かって意欲的に各種運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・自分の目標を持って体育の学習に取り組んでいるという児童の割合 ・個々の児童が目標を持って運動に取り組めるように工夫している教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	②〈安全指導の徹底〉 体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し、事故のない安全・安心な教育活動を確保する。	保健体育部	安全指導を徹底し、けがや事故の防止に努め、児童の危機回避能力育成のための努力をしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・けがや事故に気をつけて活動しているという児童の割合 ・安全指導を徹底し、児童自身が危機回避への意識を持てるようになっている教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	③〈健康教育・生活リズムの確立〉 基本的な感染症対策を行い、自らの健康や生活に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	「早寝週間」「早起週間」「家庭学習強化週間」に積極的に取り組み、児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】 ・よい生活リズムづくりを心がけているという児童の割合。 【保護者アンケート】 ・子どもの早寝・早起きやSNSのルールを決めて実行し、メディアコントロール等、生活リズムを整える取組をしている保護者の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
5 家庭・地域との連携	①〈PTA活動のさらなる活性化〉 保護者と連携して、PTA活動の活性化を図る。アクションプランを共有しながら参画意識を持って、あいさつ等、社会性の育成に取り組めるよう努める。	教頭	PTA活動の趣旨が理解され、協働意識が高まるとともに、学校行事やPTA行事に保護者が積極的に参加している。また、児童の生活や学習の状況を理解し、より良い習慣育成のための家庭での指導・支援が適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】 ・子どもが地域の方等にもすすんで挨拶ができると感じる保護者の割合 ・PTAの活動や地域行事にできるだけ参加している保護者の割合 ・挨拶や地域での過ごし方等、PTAとの連携を図りながら改善できるよう努めている教職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満
	②〈コミュニティスクールの推進〉 学校と地域が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、地域の人材が積極的に学校運営に参画できるコミュニティスクールを継続する。また、地域・保護者のニーズを把握し、「開かれた学校」として地域や保護者に信頼される学校づくりを進める。	CS担当教諭	地域人材の有効活用をはじめ、校内外の課題を効果的に協議・改善するため「学校運営協議会」の運営の充実にも努める。また、多様な媒体で「開かれた学校」づくりについて適切に情報を発信する。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 ・地域の学習や地域の先生との学習で、興味深く学びが深まったと感じる児童の割合。 ・地域や家庭との連携を大切にCSの活動を理解し、活用しようとしている教職員の割合 【学校運営協議会委員の意見】 ・CSディレクターを中心とする適切な学校運営が進んでいると感じる委員の意見 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満